

グループ名	TEJPA
人数	7名
所在地	レンピーラ県ラ・カンパ市
コミュニティ名	トントロ・サンタ・カタリーナ
起業分野	自然紙製品生産販売(手漉き紙)
進捗状況	組織化 起業分野選定 研修 生産 販売
地域の特色	ラ・カンパ市街地から山間部に位置する農村で、市街地までのアクセスが非常に悪く、貧困地区である。ベースライン調査結果によると、大多数がカトリック教徒である。子供の数が多く、女性の移動範囲が狭い。就学年数は男性が平均小学6年生までであり、女性はその半減である。男性に比べ女性の非識字率が高い。
起業の経緯	2004年10月から組織化のために住民集会を持った。話し合いを続け、女性たちは瓦づくりに興味を持っている。女性には不向きと考えられたが、トントロの原料が瓦生産に向いているかの調査、女性が技術的に瓦生産が可能かどうかを見極める調査、市場調査の3つを行うこととした。技術的には瓦生産は可能だが、市場調査については思うように進まず、いまだに実施可能かどうかの見通しがついていない。一方、女性のやる気を維持するために製紙技術の導入を4月から開始した。この活動では、顧客もつかみ、販売まで行っているが、生産性が低く1日働いても20レンピーラしか収入がないため、生産と市場の両面から強化をする必要がある。
グループの特徴	グループとして活動するのは、今回が初めてである。7人のメンバーと規模は小さいが、まとまりがあり団結力が強い。他のNGOにより手帳、写真立て、帽子等、様々な種類の製品を開発しているが、本プロジェクトとの関連はない。グループに参加した理由として、「新しいことを学びたかったから」「グループに参加することで、生活が安定すると考えたから」という意見が聞かれた。
今後の課題	電化されていないことで、作業工程の簡素化が容易でなく、生産力に限界がある。継続的に販売できる市場を持っておらず、生産販売活動を行うにはコミュニティが公的交通機関を使用できる場所から離れている。会計処理について、継続的な指導を行う必要がある。



グループ名	NUEVA VISIÓN
人数	14名
所在地	レンビエーラ県カンパ市
コミュニティ名	クルス・アルタ
起業分野	製パン、わらじ生産
進捗状況	組織化 起業分野選定 研修 生産 販売
地域の特徴	ラ・カンパ市街地から4km山間部に位置する農村で、市街地までのアクセスが悪く、貧困地区である。穀物栽培を中心に生計を立てている。女性グループとしては陶器生産を行っているものもある。地区により、経済水準に格差がある。ベースライン調査結果によると、大多数がカトリック教徒である。事実婚の割合が高く、子供の数が多い。男女共に小学校中途退学率が高く、男性に比べ女性の非識字率が高い。マチスモ（男性優位主義）の度合いが高く、女性が外出するときには、夫の許可がいる。
起業の経緯	2004年の10月から組織化のために住民集会を持った。最初の説明会で若者を中心に職業訓練を施すと説明したことから、住民側の誤解を生み、その後女性の起業支援であると説明しても、住民側が最初に考えた若者への職業訓練の意識を拭い去ることができなかった。そのため、家庭訪問などを通して意識の是正に努めたが、コーヒー収穫の出稼ぎとも重なり、招集しても人々は集まらなくなった。村には数年前から製パングループが形成されており、積極的に当プロジェクトへの支援の要請があった。4月に市場調査を行い、小規模ながらも持続可能な活動であるとの見通しができたので、製パングループに対し技術研修と資材の供与を行い、継続した操業の形態をつくりつつある。ただ、女性たちは思ったほどの所得を得られないことから、他業種への転換も考えている。
グループの特徴	グループに参加した理由は、「パンを作るのが楽しい」、「仲間、友人が増える」という意見であった。2年前に結成されたグループであり、プロジェクトがグループに与えた影響は少なく、リーダーによると、「プロジェクトに参加してよかった点は、パンの種類が増えた」とのことである。グループの規程は存在しているが、文章化はされていない。「地元で販売して、生活の足になれば…」と考えているメンバーがおり、商売意欲は少ない。
今後の課題	市場までのアクセスが良くないため、販路の確保を検討する必要がある。雨によるがけ崩れなどで村への物資運搬が制限されることがある。販売量が少ないため、収入が少くない。会計処理について、継続的な指導が必要である。



グループ名	MICROEMPRESA DE TEJIDO SAN MANTILLAS
人数	12名
所在地	レンビエラ県カンパ市
コミュニティ名	カンパ
起業分野	織物
進捗状況	組織化 起業分野選定 研修
地域の特徴	市役所所在地。市役所では観光に重点を置いており、現在、スペイン国際協力機構が整備を進めている建物に女性グループの商品販売所を設置する計画がある。地区により、経済水準に格差がある。ベースライン調査の結果によると、カトリック教徒とプロテスタント教徒が半数ずつの割合である。夫の暴力による別居、シングルマザーの割合が高い。これらの女性は「食堂などを経営する」「会議の場で自分がシングルマザーであることを発言する」など、自ら働き、自分の意見を公の場で述べることができている。就学年数は男女共に平均小学6年生までである。
起業の経緯	ラ・カンパ市街地にあるグループ。ベースライン調査の観察から、カンパ市中心地周辺のより貧困度合いの高いアレナル、サンマティエージャス地区においてファシリテーターによる家庭訪問を実施し、参加を呼びかけた。また、プロジェクトが召集した会議にはすべて参加したというカンパ市中心地のリーダー的女性が、中心地において呼びかけを行い、2005年5月に地区混合のグループ結成となった。
グループの特徴	女性達にとって、グループとして活動するのは初めてである。参加者は、リーダー的女性を中心に多くまとまっており、作業中の雰囲気も良い。リーダーはグループ活動のほかに、個人で陶器の事業を営んでおり、事業運営の知識、経験があることから、今後の活動の自立的な発展が期待できる。
今後の課題	観光を絡めて販売に結びつける可能性が少ないため、一般商品と競合することになる。また、原料の入手が今後の阻害要因になりうる。若年層の起業活動への参加が多く見られるため、今後、問題が起きないか見守る必要がある。機織り機の技術習得のため、今しばらく糸玉の作り方や、縦糸の置き方の研修が続くため、講師（プロジェクトの技師）は、生地を織る作業中心に時間配分するなど、興味を失わせないように工夫している。この基礎なくして、市場性を持ち、持続性のある織物事業はできないことから、時間がかかると地道に協力活動を進めることになる。



グループ名	BENDICIÓN DE DIOS
人数	13名
所在地	レンビエラ県ラ・カンパ市
コミュニティ名	ヌエバ・エスペレンサ/オロミーナス
起業分野	果樹栽培(タイグアアバ、ブドウ)
進捗状況	組織化 起業分野選定 研修
地域の特色	ラ・カンパ市街地からグラスアス方面へ5km地点にある。比較的豊かな水を利用して穀物栽培と野菜栽培が村の生業である。ベースライン調査結果によると、カトリック教徒とプロテスタント教徒が半数ずつの割合である。女性1人当たりの出産数は平均8.8人と多産の傾向がある。家族計画は、約8割が行っていない。就学年数は、男女とも平均小学6年生までであり、女性の中途退学の割合は男性に比べ高い。女性で約9割、男性で約8割が読み書きができると回答していることから、非識字率は低いといえる。地区の意思決定の場である飲料水委員会への参加は、男性が約8割、女性が約3割と格差がある。
起業の経緯	当初、このコミュニティはプロジェクトサイトではなく、業種が決定してその適地として名乗りを上げたことから始まった。タイ産のグアアバは植え付けから1年で最初の収穫が得られること、また、果樹が大きく市場での人気が高いことから業種を決定した。3月に苗木の植え付けと灌漑設備設置研修を行い、その後月一度の技術研修を続けている。現在果樹は直径5cmをこえ、10月末の初出荷に向けて準備中である。
グループの特徴	グループとして活動したのは、全員初めてである。「果樹を育てて収入を得る」という具体的な目標を持っており、グループの団結力が強くまとまっている。「グループに参加したことで、自分の家庭内のことだけでなく、コミュニティ全体のことを考えて行動するようになった」と話すメンバーがあり、女性達の意識に変化が現れ始めている。男性もグループの活動を積極的に支援している。
今後の課題	10月下旬から収穫に入るが、市場価格の変動と輸送コストの上昇がどの程度販売面で阻害要因になるか、いまだ予想がついていない。コミュニティ内の人間関係に気をつけて活動する必要がある。ぶどうの苗の方は枯れてしまっており、他の果物を栽培する場合、土壌、気候等を考慮して選定する必要がある。また、栽培に関する技術的サポートも不可欠である。



グループ名	SUPERACIÓN FEMENINA
人数	8名
所在地	レンビエラ県サン・マヌエル・コロエテ市
コミュニティ名	カスコ・ウルバーノ
起業分野	製粉
進捗状況	組織化 起業分野選定 研修 生産 販売
地域の特色	市役所所在地。政治、宗教により、参加に格差がある。ベースライン調査結果によると、カトリック教徒とプロテスタント教徒が半数ずつの割合。都市への出稼ぎ、シングルマザーの割合が高く、村の意思決定の場である理事会に参加している女性の割合が比較的高い。就学年数は男女共に平均小学6年生と比較的高い。
起業の経緯	2004年10月から住民集会を重ねて、起業業種の話し合いを繰り返した。1月に入りDi-Mujer事業が同地で実施されるとの情報が入り、当プロジェクトのスキームと少々違うため住民側に混乱が生じた。その後、住民集会で2つのプログラムの違いを説明し、市街地では当プロジェクトが担当することとなり、事態は収束した。6月にグループが形成され、製粉事業を行うことが決められた。8月に製粉機を設置し、Agua Calienteの先進グループから講師が派遣され、研修を行った。
グループの特徴	グループとして活動するのは全員初めてである。高齢者の多いグループであるが、活力は十分にあり、人的能力は高い。
今後の課題	町の規模と競争相手の数（1カ所）から考えて採算のある事業ではあるが、多くの収入は期待できない。予想どおりの収入をあげられない場合、メンバーのやる気を維持することができかねるかが課題になる。今後、現金収入が発生することから、管理方法を明確にするよう指導する必要がある。



グループ名	MUJERES HACIA UN NUEVO PROGRESO
人数	13人
所在地	レンビエラ県サン・マヌエル・コロエエ市
コミュニティ名	シブレス/ブエノス・アイレス
起業分野	養蜂
進捗状況	組織化 起業分野選定 研修
地域の特徴	市街地から5km山間部に位置する農村で、市街地までのアクセスが悪いが、年中車両によるアクセスは可能である。山岳部の斜面で穀物栽培を行い、コーヒーの収穫期には産地へ摘み取りの出稼ぎに行くのが典型的な生活パターンである。一部レンカ人が居住している。ベースライン調査の結果によると、カトリック教徒とプロテスタント教徒が半数ずつの割合である。世帯内外における女性のリソースへのアクセス、発言権、交渉力、意思決定権は弱く、マチスモ（男性優位主義）の度合いが強い。就学年数は男女共に平均小学2～3年生までであり、男女共に中途退学率が高い。男女共に非識字率が比較的高い。
起業の経緯	2004年の10月から組織化のために住民集会を持った。最初の説明会で牛の飼育希望者が多く、これに対してプロジェクト側から牧畜も選択対象の業種に入れると答えた。その後の集会で業種導入可能性の話をを行った際に、牛を飼うための牧草の確保の問題と女性の仕事として実施可能かの点について話し合った。集会に集まった人々は牛が各家庭に1頭ずつ供与されると思い込んでおり、そうでないとき、潮が引くように参加者は家へ帰っていった。その後、コーヒー収穫の出稼ぎとも重なり、招集しても人々は集まらなくなった。エル・シブレス村は実質的に3地区に分かれており、プロモーターが再活性化のために家庭訪問を行った結果、当プロジェクトとの活動を希望するブエノス・アイレス地区の住民を対象に2005年4月に集会を開いた。その後、話し合いを続けた結果、養蜂に決定した。6月にグループの決定と業種の決定を行った。7月に機材を運び込み、研修を開始した。販売については、地元のNGOに依頼する予定である。
グループの特徴	メンバーの結びつきが強く、グループとしての活力が高い。男性も積極的にグループの活動を支援している。グループに参加した理由は、「新しいことを学びたかったから」が大半で、プロジェクトが実施したモチベーション向上のためのワークショップをきっかけに、さらに学習意欲を高めたメンバーも多い。
今後の課題	現状では、取れる蜂蜜の量が少なく、生産量の拡大が必要である。また、蜂の良好な管理のため定期的に状況を確認し、問題が発生した場合、すぐに対応できるようなシステム（連絡体制）をつくることが望ましい。交通の便が悪く、商品の運搬方法などを検討する必要がある。



6. プロジェクトの実績

(1) プロジェクト目標達成の見込み

要約	指標	実績
プロジェクトサイトの女性受益者が地域のリソースを活用した小規模事業を起業・運営できるようにする	1. 2006年までに地元資源を利用した20の自立的な小規模事業が設立され、助言を受ける 2. 小規模事業運営の能力を身につけた女性の数 3. 生活改善に資するエンパワメント	中間評価実施時までに17の女性グループが形成され、13グループが生産活動を開始し、そのうち10グループが生産する商品を販売している。いずれのグループもプロジェクトの支援を受けながら活動を行っており、事業の自立性が確保されるには至っていない 中間評価実施時までに女性受益者を対象とした研修が19回実施された プロジェクトで設定したエンパワメント指標に基づき、2005年6月から9月にかけて女性受益者を対象としたエンパワメント調査を実施した。同調査の結果をベースラインとして、今後女性受益者のエンパワメントの変化を見ていく

(2) 活動の実績 (成果の達成度)

要約	指標	実績
0. 明確になった条件を基にプロジェクトサイトが選定され、プロジェクトの実施計画が定められる	1. プロジェクト実施のために20サイトが決定される 2. 他機関の類似プロジェクトの把握 3. 2004年5月までにプロジェクト・ドキュメントが策定される	2005年9月までにコバン県、レンピーラ県で12のサイトが選定され、17の女性グループが形成された (コバン県: 9グループ、レンピーラ県: 8グループ) コバン県、レンピーラ県でPRAF Di-Mujerのプロジェクトに関する調査を実施した。中間評価実施直後に、チョルテカ県で本プロジェクトと類似したPRAFのプロジェクトを視察する予定 2003年10月にプロジェクト・ドキュメントが作成された
1. 小規模起業者のビジョンを持った女性受益者グループが組織される	1. 小規模起業者の意欲を示し、組織化された20のグループ 2. 20の実現可能な小規模起業計画	2004年9月から2005年9月の間にコバン県、レンピーラ県で17の女性グループが結成された (コバン県: 9グループ、レンピーラ県: 8グループ) 生産業種を決めるワークショップを実施し、上記17グループのうち15グループが起業分野を決定した小規模起業計画はプロジェクト側が中心となって策定している
2. 女性受益者が自立的な小規模事業の起業・運営に必要な知識及び技術を身につける	1. 2006年までに20の小規模事業が有効に機能する能力を身につける 2. 小規模事業の発展のための受益者の参加度と充足度	中間評価時、13の女性グループが生産活動を行っており、このうち10グループが生産する商品を販売している。いずれのグループもプロジェクトの支援を受けながら活動している状況にある 短期専門家 (ジェンダーエンパワメント指標設定・監理指導) が設定した指標に基づき、2005年6月から9月にかけて女性グループのメンバーのエンパワメント調査を実施した (参加度、充足度を含む)。同調査の結果をベースラインとして、今後の変化を調査する予定 融資を受けずに事業を実施することを目標としており、中間評価時までにPRAFの融資を受けた小規模事業はない
3. PRAFの機材貸与と融資によって小規模事業が促進される	1. 2006年までにPRAFのクレジットシステムに組み込まれた小規模事業の数 2. PRAFの機材貸与と融資の適切な使用と運用	中間評価実施時、PRAFの融資を受けている小規模事業はない機材はプロジェクトが貸与しているプロジェクト終了後、機材はPRAFに譲与される予定。機材の維持管理・使用状況は概ね良好

<p>4. 小規模事業を阻害する問題が解決される</p>	<p>1. 生活の改善のために研修を受けた女性の数 2. 小規模事業の外的脅威に対応するための活動数</p>	<p>中間評価実施時まで生活改善のための研修を8回実施した。このうちINFOPが実施した研修の報告書が作成されていないため、参加者の正確な数は把握されていない 上記8回の研修のほか、プロジェクトが学生を対象に衛生に関する研修を実施し、これを受講した学生が女性グループに研修を行った。また、バン、サンダルづくりの研修（それぞれ1回、6回実施。開催地は、オルミナス、ピンターダ、シプレス、サン・マヌエル・コロエテ）は栄養・衛生状態の改善につながることから、生活改善のための研修でもあった。今後レンビペーラ県では、菓卓に関する研修の実施が計画されている</p>
<p>5. 小規模事業を支援するカウンターパートの能力が強化される</p>	<p>1. 研修を受けたカウンターパートの数 2. 2006年までに研修を受けたカウンターパートによって支援された20の小規模事業</p>	<p>C/P、PRAFのプロモーター（CP以外）プロジェクトが備えるプロモーターを対象に研修を3回実施したテーマはそれぞれ、(1)エンパワメント指標のモニタリング手法、(2)ジェンダー、(3)社会研修を実施するための手法・テクニク プロジェクトにより形成された17の女性グループのうち、15グループがプロモーターの支援を受けている</p>
<p>6. 将来のプロジェクトに実施される目的で本プロジェクトのプロセスと経験が蓄積される</p>	<p>2006年までにプロジェクト実施についての検証ドキュメントが整備される</p>	<p>ドキュメントは作成されていないが、専門家が適宜プロジェクト実施のプロセスと経験をまとめている。女性受益者のエンパワメントの変化については、2005年6月から9月にかけて実施されたエンパワメント調査をベースラインとして今後の変化を記録する予定</p>

(3) 投入

日本側の投入

専門家派遣

氏名	派遣期間	分野
石橋 裕子	2003.9.3 ~ 2004.12.19	参加型開発 / ジェンダー / 業務調整
九筈 逸郎	2003.11.3 ~ 現在	チームアドバイザー
小田桐 久夫	2003.11.3 ~ 現在	訓練計画
本家 正彦	2005.2.22 ~ 2005.3.19	市場調査指導
黒田 史穂子	2005.2.22 ~ 2005.5.18	参加型開発 / ジェンダー
藤掛 洋子	2004.12.26 ~ 2005.1.8	ジェンダーエンバワメント指標設定・監理指導
田村 文宏	2005.4.3 ~ 2005.5.9	陶芸
黒田 史穂子	2005.7.11 ~ 現在	参加型開発 / ジェンダー / 業務調整

研修員受入れ

本邦研修

氏名	研修期間	研修内容
Waldina Lizeth Castro Oyuela	2005.2.8 ~ 2005.3.12	女性起業家育成のための指導者セミナー

第3国研修 (チリ)

氏名	研修期間	研修内容
René A. Murillo Torres	2005.2.8 ~ 2005.3.12	女性起業家育成のための指導者セミナー (研修)
José Javier Ramirez Solgro	-	女性起業家育成のための指導者セミナー (貸付)

供与機材

会計年度	金額 (レンピーラ)
2003	41,670.52
2004	300,433.18
合計	342,103.7

現地業務費

会計年度	金額 (レンピーラ)
2003	365,300.00
2004	2,374,000.00
合計	2,739,300